

いま新鮮な空堀界わい

からほり瓦版

《からほり瓦版の発行にあたって》

「からほり」は、ちょっと横道にそれると町のあちらこちらに祠があったり、お地蔵さんが祭ってあったりします。懐かしい昔が見えます。

この町の良さを知って欲しい。また、訪れた方がほっとした温かい気持ちになり又来ようと思っただけいたら。そんな小さな手伝いをしようと発行しました。

◆ご意見、感想、情報、ご投稿大歓迎です。『高齢者外出介助の会』までお願い致します。

大阪市中央区谷町6-3-10

広橋ビル3階

TEL/FAX 06-6764-4002

EMail odekake@m17.alpha-net.ne.jp



現在の谷町筋

『高齢者外出介助の会』はこんなことをしています。

- ・外出に不安を感じてられる高齢の皆様の外出に同行しています。利用は事前登録が必要です。
- ・介護保険外支援 介護保険に含まれない1時間程度のこと。例えば「夏に向うので簾をかけて欲しい」とか「家の立て付けが悪いのでふすまなど扉の開け閉めに困っている」などなどご相談によりお手伝いします。

その他いろいろしていますので、一度声をかけてみてください。



空堀商店街振興組合 理事長 白石 重夫

子供の時分からこの町で育ち、長じて空堀商店街で、商いを始めてから50年。空堀界わいも徐々に変わって参りました。運良く戦災を免れた関係で、大まかに表現すれば大正、昭和の雰囲気そのまま残っている町です。幸い今の若者には珍しく且つ新鮮に写るのか単なる興味からか、この町に住みたいという人達が結構増えて参りました。堀江、南船場とは違った意味で、地域、商店街の活性化に火がつくのではと、そんな予感がして参りました。

この機会に地元自治体はもとより、空堀界わい長屋再生プロジェクト(代表六波羅氏)、高齢者外出介助の会(代表永井氏)等各種友好団体のご協力を得て、いい雰囲気の地域の発展を願っております。

まち物語

藤尾 博

■空堀通りと桃園地区

近年マスコミやドラマで有名になった空堀。この地名は大坂城外堀に由来すると言ひ伝えられています。有事に際してのみ水を入れる空の堀、が空堀と。寶曆九年(一七六〇年)に編纂された地図によると空堀の名はなく、記載された寺院や運河等の位置から計測すると生駒町とある場所が空堀通りと一致します。上二筋から西へ下って松屋町筋まで続く生駒町、途中に二つのT字路を配し、一つは田島町《現在町名変更》、後は旧桃園小学校があったところですが、桃園地区とも称され、昔から桃の林があったから、とか伝える人もありました。しかし桃園地区にあたる位置は、瓦屋藤右衛門屋敷と畑、町屋との記載があり藤右衛門のトウエモンの音が桃園に転化したと私は推察します。そしてこの町屋とある位置、最近多くのアーティスト達がアトリエを開いている地区と一致するのです。

空堀通りから北へ長堀通りまで、谷町筋から西へ松屋町筋までが瓦屋藤右衛門屋敷とその畑、町屋だったようです。広大な土地を所有した瓦屋藤右衛門の名は百年ほど下った頃消滅します。旧桃園小学校周辺地区は瓦土取り場となってしまうのです。空堀通りから位置が低いのは採土のためではないでしょうか。屋敷は消滅しますが町屋と畑は残りました。

空堀、明治初期になっても生駒町の名は続きますが通称カラホリ、と記入され、後に南空堀町と改められこの町名は近年まで引き継がれました。

■谷町・タニマチ

谷町の地名は古く寶曆九年(一七六〇年)の地図に現れています。谷町筋は現在とほぼ同様で谷町九丁目から天満橋までの位置です。同じく前述の地図に基づき進めます。

空堀通りから谷町筋を北へ向かって奉行や与力同心の屋敷が立ち並び、その景観は素晴らしいものであったと思います。パスポートセンターや合同庁舎のある位置には城代家老屋敷がありました。秀吉が誘致したといわれる寺院は現在とほぼ同じです。

谷町・タニマチの地名が近年全国区になったことがありました。《〇〇社のタニマチぶり》「政界汚職事件発覚で過大な資金援助をした会社のことを新聞や週刊誌の見出しで見受けるようになりました。

固有名詞としてのタニマチ・谷町―昔相撲場所が始まると谷町の寺院に各相撲部屋は合宿しました。若い力士が怪我をすると報酬取らずして治療し、あまつさえ物心にわたって応援までするお医者様が谷町のどこかに居られたそうです。そこから応援することをタニマチと称するようになりました。

時は下り言葉は一人歩きしてスポンサー的な語意、賄賂行為まで例えられるようになったわけです。本来の意味は、将来ある若者を励まし応援援助することです。金集めに狂奔する政治家や役人を援助することではありません。タニマチ・とはそんな良い美しい意味を持った言葉なのです。

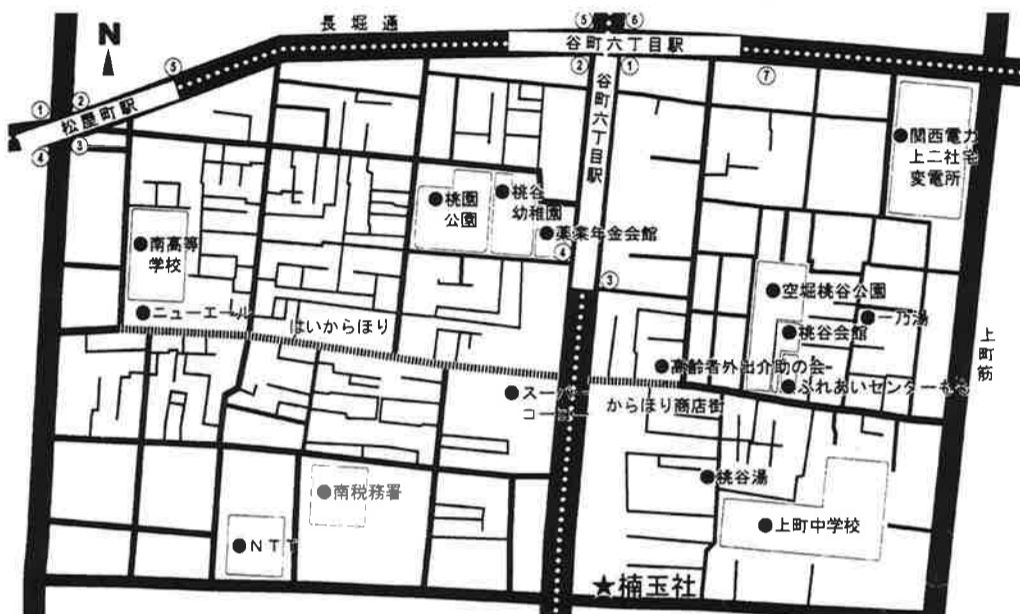


谷町八丁目交差点を東へ入った道路のどまん中。写真のクスノキをご存じでしょうか。空襲で枯れた木が残され、その下にほこらが祭られています。

もとは本照寺というお寺の境内だったのですが、昭和一三年、周防町筋の拡張で境内が削られ、切るとたたりがあるからと、道路の中に取り残されたというわけです。この道は『くすのき道』として親しまれています。

史跡めぐりルートに指定されている近松門左衛門の墓とともに、寺町の名残りを今に伝えていきます。

からほり界隈には、道路のまん中や路地の奥など意外なところに大木があり、お散歩コースにお勧めです。



この町に生きて

大阪府中央区桃谷地区 民生委員・児童委員
久下佳子さん

桜の便りとともに思い出す。今年1月15日に他界した父は、一昨年の桜の季節に転倒、外科病院のお世話になりました。高齢の患者によく見られる言語や行動に異常が現れ、病室の変更や家族の付き添いなど試してみましたが状態はよくなり、在宅看護でということで退院し、車椅子の生活が始まりました。思うままに行動できない体になり、家庭での看護に手を焼く毎日でした。しかし、週1回のお医者さんの往診と、週2回の訪問看護で健康管理をしていただきました。特に訪問看護の日は、入浴とリハビリでその日のくるのを楽しみにしていました。

外出が好きな父の願いから、暑い日も寒い日も、車椅子で散歩しました。住み慣れたこの町の商店街や、小学校跡にできた公園で外の空気を楽しみました。あちこちで、なじみの方々に声をかけていただき、世間話をして帰ったときの晴れ晴れした顔を思い出します。この町で育ったため、知り合いも多く、気軽に声をかけていただき元気をもらって帰宅、その日はゆったりと横になっていました。世話をする家族にも、疲れたと思うころに、気心の知れた方たちにも声を掛けていただき、励まされたとき、また明日もがんばろうと思えました。

多くの人たちに見送られ黄泉の世界に旅立った父も、90年の生涯を過ごしたこの町の「人の和と温もり」に感謝しつつ、この町がいつまでも住みよい町になることを望んでいると思います。



からほり Photoスケッチ

家々の前に置かれた緑や花の鉢が町に潤いを与えている



石畳の路地



《始めました》
◆ライフ・ステージ ケアセンターはる
地域に密着した手造り介護を目指しています。
お問い合わせ 06-6767-1131

◆おじさんのピアノ教室 月2回・5000円
お問い合わせ 06-6763-0045 (玉林堂)

◆マリナバ教室
お問い合わせ 06-6764-4002
(高齢者外出介助の会)

《ちよつと困っています》
このごろ空堀の魅力探索に訪れる方が増えています。とても嬉しいのですが、ごみのポイ捨てに困っています。ご自分の出されたごみはお持ち帰りください。すよつ、ご協力お願いします。

多様で個性豊かな商店街

商店街のぶらり歩きほど楽しい道楽はない。しかし昨今、気軽にぶらつける庶民的な商店街、いわゆる昔ながらの日々の生活に密着した商店街がめっきり少なくなった。だからというか、最近、元気を無くした商店街が多いように思う。

そんな中で、この空堀商店街はどうか。結論からいうと、まだまだ元氣一杯の商店街だ。ここには住民の生活に密着した活気があふれている。大阪の元氣印の商店街といえば、天神橋筋商店街や黒門市場の商店街、鶴橋の御幸通商店街などが言われるが、私は空堀商店街を一番に挙げたい。

アーケードの商店街そのものはどこにもある風景だ。しかしその中身は多様で個性豊かである。通りにまで商品を並べた八百屋や果物屋、こだわりの感じられる手作り豆腐屋や菓子屋、昆布屋、魚屋。あるいは、夜になると組み立てられる屋台の寿司屋やユニークな鉄板焼の店、韓国風居酒屋、グリル、そば屋、焼肉の店、お好み焼の店……などなど、安くて旨い飲食店も数え上げればきりが無い。

さらに一歩路地や横道に入ると、震災にも焼け残った昔ながらの生活空間が現出する。住民から大事に祀られている辻々の稲荷や地藏堂、石畳や石段の道、玄関先に花の鉢が並べられた長屋とその背後に見える堀の石垣、そして銭湯……。

それがまた空堀商店街の大きな魅力だ。戦前から受け継がれる庶民生活の匂いが色濃く残る界隈を散策しながら、買物やグルメが楽しめる商店街—こんな商店街は今どきめったにお目にかかれない。

取り澄ましたブランド店やビル化した店が幅をきかす商店街か、あるいは大手スーパーなどの進出に押されて閑散とした商店街が多くなった現在、このままの姿であってほしい商店街の一つである。

(旅行ペンクラブ・林 豊)